

中学校 新学習指導要領と学習評価

見通し・振り返り編

監修：広島大学大学院 准教授 永田 忠道

1. 新教科書での活用のポイント①
社会科における「学習の見通しと振り返り」の機能と効果… p.1
2. 新教科書での活用のポイント②
社会科における「指導と評価の一体化」の具体的手法 ……p.4
3. 指導書での「学習の見通し・振り返り」のサポートについて…p.7
4. 地理指導書「学習の見通し・振り返りシート」 ……p.9
5. 歴史指導書「学習の見通し・振り返りシート」
別冊 タイムトラベル ワークシート・解説 ……p.11
6. 公民指導書「学習の見通し・振り返りシート」「学習指導案編」
「指導用教科書(朱書き編)」 ……p.13
7. 地図帳・教科書 指導書Webサポート ……p.15

社会科における「学習の見通しと振り返り」の機能と効果

— 学ぶ動機と手応えを実感・評価できる新教科書の“策略” —

広島大学大学院人間社会科学研究所 准教授 永田 忠道

1. 学校内外・教室内外での学びの転換

私たちが学校やいろいろな場で勉強したり学習したりする際に大事にしていることは何だろうか。例えば、ある生徒は予習を、別の生徒は復習を重視しているかもしれない。予習も復習も双方ともに大切にしている生徒もいれば、何よりも学校での授業における全集中の学習をこそ大切にしてくれる生徒も存在する。

このような学びのあり方は中学生の個人ごとに異なり多種多様である。学習対象となる教科や内容によっても様々な学びのスタイルがあることは誰しもが実感している。

中学校の社会科でも、地理と歴史と公民の各分野では当然のように学び方は大きく異なる部分もあれば、社会科として共通する部分もある。地理学習における最善の学び、歴史学習における最適な学び、公民学習における最高の学びとはどのような学習となるのだろうか。

学習科学や学習開発といった研究の進展も活発化する中で、中学校の教室や学校内外での学びのあり方も試行錯誤が展開されている。社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学び等々、この度の新学習指導要領においても、これまでのような教科書の内容を基盤とする知識と理解を中心とした学習から、教科書をもとにしながらか教室や学校内だけにとどまらない様々な人々と環境の中での協同的・共同的・協働的な学習を通じた市民として求められる資質・能力の向上が目指されている。

2. 新たな学びと評価を導く地理教科書

今改めて、学校や教室の仮想空間内だけでなく、地域社会の現実を巻き込んだ学びへの転換

が進んでいる。新しい社会科教科書においても、この点についての新たな学びと評価を導く内容的・方法的な手立てが仕組まれている。

新しい地理教科書『社会科 中学生の地理』の場合、表紙をめくってすぐの巻頭1～2の見開きから、この新たな学びの手立てが用意されている。それがSDGs (Sustainable Development Goals) である。SDGsは「持続可能な開発目標」の名の通り、2015年に国際連合で採択された2030年までの解決を目指す全ての地球市民の目標である。具体的な17のゴールと169のターゲットで構成される世界的な目標は、地理学習だけでなく、中学校社会科全体での学びに非常に重要な見通しを与えてくれる道標でもある。

地域のよりよい発展を目指した取り組みや学習は、私たちの身近な地域だけでなく、日本や世界の様々な地域のよりよい発展を視野に入れる必要がある。今、中学生が地理や社会科を学ぶ意味や動機とは、世界や日本そして自分たちの身近な地域においても続発する自然災害などはじめとする喫緊の地球的で地域的な課題解決にむけた探究にこそある。

SDGsによる大きな見通しとともに、新しい地理教科書では巻頭1～2、もくじに続く巻頭5～6の見開きに「この教科書の学習のしかた」が、従前の教科書以上にさらに充実した形で示されている(図1)。この見開きの冒頭には教科書の章・節レベルの「学習の見通し・振り返りの流れ」とともに、教科書本文レベルの「本文ページの学習のしかた」も明示されている。章・節は単元レベル、本文は授業レベルの「学習の見通しと振り返り」となり、これは単元と授業の双方のレベルにおいて「学びへの動機付け」と「学習の手応え」を先生方と生徒自身がともに自覚

図1 「社会科 中学生の地理」巻頭5

化できるような学習を誘う過程にもなっている。

地理学習の場合、例えば第2部第2章第1節のアジア州では、冒頭にアジア州に見られる特徴的な様子の写真を眺めることで、アジア州を大観しながら、この節で考えていく中心的な課題「アジア州における急速な経済成長は、地域にどのような影響を与えているのだろうか」へ接続していく学習への動機付けが仕組まれている。

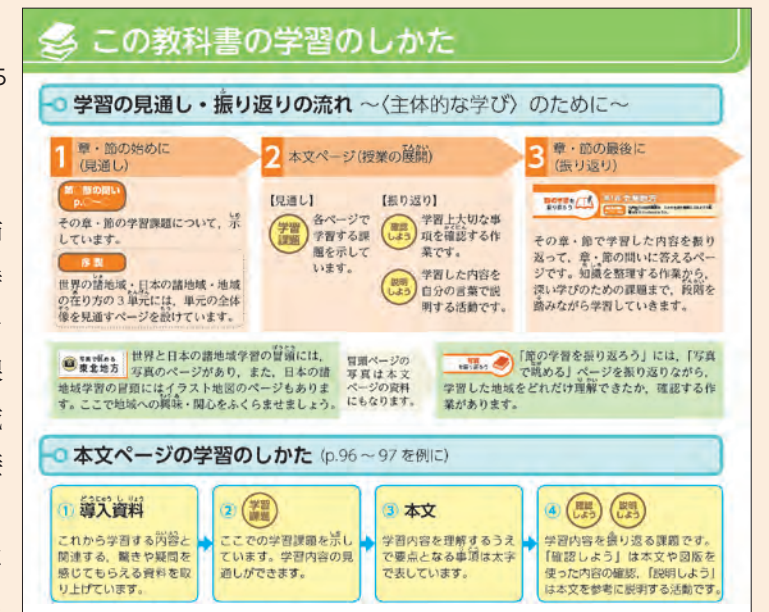
そして、アジア州の学習の最後の見開きには「節の学習を振り返ろう」が用意されている。ここでは本節・本単元で学んできた知識を確認する「学んだことを確かめよう」とともに、この節で考えてきたことを「地理的な見方・考え方」を働かせながら振り返り、生徒自身の言葉や文字で整理できるようになっている。

この振り返りでの要点となる「地理的な見方・考え方」の概要は、教科書の巻頭1～2、もくじ、「この教科書の学習のしかた」に続く巻頭7に分かりやすく整理して示されている。各章や各節の振り返りの中で、それぞれの単元や授業の内容や方法に関連が深い「地理的な見方・考え方」とは何かを意識的に往還することによって、先生方と生徒自身の授業と学びの履歴を通して、「地理的な見方・考え方」が成長していることを実感したり、自己評価したり、他者評価できるような仕掛けとなっている。

再び話を「この教科書の学習のしかた」に戻すと、この見開きの巻頭6には「コラム・特設ページ」と「特設ページ」、「コラム」の一覧が掲載されている。「この教科書の学習のしかた」の見開きにおける「学習の見通し・振り返りの流れ」、「コラム・特設ページ」、「特設ページ」にはそれぞれ「〈主体的な学び〉のために」、「〈対話的な学び〉のために」、「〈深い学び〉のために」と副題が付けられており、教科書全体を通して、新しい学びの方向性について、いつでも見通したり、振り返ったりできるようにもなっている。

3. 歴史教科書における新たな学びと評価

以上のような地理教科書における新たな学習と評価への誘いは、実は従前の教科書において



も地理・歴史・公民の三分野を通して通底されてきた流れである。原則1見開きを1時間で学習できるように構成するとともに、授業で示すめあてやねらいとしての目標を「学習課題」とし、授業の最後や家庭学習で振り返る活動としての「確認しよう・説明しよう」を設置することによって、「見通し→本文→振り返り」の学習展開をこれまでも三分野ともに重視してきた。まさにこの度の新教科書では、従前からの学習展開をより充実・強化する方向性がとられていることになる。

新しい歴史教科書『社会科 中学生の歴史』も地理教科書と同様に「この教科書の学習のしかた」がもくじに続いて配置されている。この中の「学習の見通し・振り返りの流れ」、「コラム」、「特設ページ・コラム」の構成や展開も地理と基本的には同じ体裁であるが、その内実については歴史らしい学びへの仕掛けを確認できる。

例えば、学習の見通しを持たせる手立てとして、地理の場合には各州や各地方に特徴的な写真がふんだんに用意されていたが、歴史の場合には大きな転換点となる節にイラストで各時代の様子が描かれた「タイムトラベル」が用意されている。この「タイムトラベル」は必ずしも各章・各時代の冒頭にはではなく、各章・各時代のポイントとなる箇所に配置されていることで、その時代や時代の中での転換点を見通しながらの学習を促す機能を備えている。

その上で、歴史の場合には各章の末尾に必ず見開きで「章の学習を振り返ろう」が置かれている。歴史の振り返りでは、すべての「章の学



で、地理や歴史の振り返りページに立ち戻ったり見返したりする、中学校の社会科学習全体を通した「学習の見通しと振り返り」が重要であることも指し示している。この「振り返りの振り返り」こそが、この度の新教科書で通底されている社会科学習と評価の骨格にもなっている。

その象徴的・具体的な単位となるのが、公民の最後の学習となる第4部第2章の「課題の探究」である(図2)。この単元の学習テーマは「持続可能な社会を目指して」とあるように、地理教科書の巻頭1～2で示されていたSDGsによる学習の大きな見通しが、実は地理だけでなく、中学校社会科全体を通した見通しでもあり、公民の第4部第2章の「課題の探究」であることを意識・理解しておきたいところである。

中学校社会科の三分野構成のあり方は、ザブトン型やパイ型等々、歴史的にも様々な議論がされてきた。本来的には、地理や歴史や公民の強みをそれぞれ生かしながらも、それぞれの強みを組み合わせることによる「総合的な社会研究」としての社会科の学習が展開されることが理想的である。この度の新教科書における「学習の見通しと振り返り」の強化の先には、中学校の社会科として本来的・理想的に期待される学習と評価のあり方への思いや願い、そして“策略”も込められているのかもしれない。

習を振り返ろう」の左ページに年表と地図、そして「タイムトラベルを眺め直そう！」が置かれており、その時代の知識に関する整理を行った上で、右ページで「歴史的な見方・考え方」を働かせて時代の特色を自分なりに整理して説明できるような構成がとられている。このような丁寧な学習の振り返りが次の時代の学習へ向かう見通しをもたせることにもつながり、「歴史的な見方・考え方」の成長を実感・評価できるようにもなっている。

4. 公民教科書における新たな学びと評価

新しい公民教科書『社会科 中学生の公民』における「この教科書の学習のしかた」では、地理や歴史とは異なる特徴として、4部構成の各部の冒頭に学習を見通すことのできる動機付け「学習の前に」が設定されている。現代社会を学習対象とする第1部では、40年前の仮想のまちの様子イラストと、現在の仮想のまちの様子イラストを見比べながら、「現代の日本の特色や、私たちの生活を形づくってきた文化の意義・影響を理解するとともに、現代社会をとらえる枠組みについて学習してみよう」という見通しが直接的な表現で明示されている。

その上で、公民においても各章の末尾には必ず「章の学習を振り返ろう」が置かれている。地理や歴史とは少し異なり、公民での「章の学習を振り返ろう」の見開きの左ページでは、知識に関する用語を直接的に振り返るように設定されていることが印象的である。公民の場合、難解な知識や概念を用語として押さえつつも、そのような用語を現実の出来事や他の知識や概念とつなげたり関連づけたりすることで、より豊かな理解や思考へと結びつけていけることが多い。そのため、各章での振り返りで学習を完結させるのではなく、いつ何時にでも各章の振り返りページに立ち戻ったり、見返したりできるようにすることが、公民での学習を深めていく上での要点にもなる。

このようないわゆる「振り返りの振り返り」は公民の中だけでなく、公民の学習を進める中

新教科書での活用のポイント②

社会科における「指導と評価の一体化」の具体的手法

－「章(節)の学習を振り返ろう」を学習の整理だけでなく起点にもする－

広島大学大学院人間社会科学部 准教授 永田 忠道

1. 「指導なき評価」と「評価なき指導」

社会科における「指導と評価の一体化」を考えると、「指導なき評価」と「評価なき指導」のあり方を確認すると分かりやすい。

社会科における「指導なき評価」のあり方とは、例えば、アジア州については、教科書内容に忠実な先生の授業を受けた生徒に対して、教科書ではほとんど取り扱われていないブルネイについてのみの内容を問う試験を行い、その結果のみで生徒の学習評価を行うようなことが想定される。社会科における「評価なき指導」のあり方とは、例えば、教科書もさておき、試験もしないことを前提に、歴史上の日記だけを題材にした歴史授業を行い続けるような姿を指す。

そのような事例であっても、授業内容を応用的に活用して導ける問題となっていたり、新たな歴史上の日記を発掘して読み解くような研究者が生徒の中から誕生したりするなどの肯定的な可能性も否定はできないが、一方で両者の事例の場合には評価と指導の双方が破綻する可能性も高い。アジア州に関する「指導なき評価」の事例は教科書に忠実な授業と応用的にブルネイを出題する試験問題の相関を構築するには、教師側にも生徒側にもかなりの高度な資質・能力が求められる。歴史上の日記だけを題材にする「評価なき指導」の事例は、相当に魅力的な授業でない限り、多くの現実主義的な生徒たちを引きつけることは不可能であるし、そもそも、これは少し残念ではあるが、いまの日本の公教育制度のもとでは、実現は不可能なことである。

2. 社会科における「指導と評価の一体化」

いま改めて社会科における「指導と評価の一

体化」が求められる背景は、ここまでの前置きの中にある。社会科の指導と評価に関する先生の感覚や経験はもちろん大事だが、それだけに委ねる社会科ではなく、より信頼性と妥当性の高い社会科のあり方を求める社会的な現実が、今回の「指導と評価の一体化」の背景にある。

このような背景もあって、この度の学習指導要領で示された目標と内容は学校での作成が期待される「内容のまとまりごとの評価規準」にも対応する形で設計されることになった。評価の三観点の中で特に「知識・技能」と「思考・判断・表現」については、学習指導要領の内容のまとまりに示されている知識及び技能に関する内容と思考力、判断力、表現力等に関する内容の文末を「・・・理解している」と「・・・考察(、構想)し、表現している」と表現し直すだけで、そのまま評価規準とすることができるようになっている。「主体的に学習に取り組む態度」については、学習対象(例えばヨーロッパ、中世の日本、市場の働きと経済)について、地理と歴史では「よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究(、解決)しようとしている」、公民は「現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている」と表すことが例示されている。

例えば、地理的分野の内容B「(2)世界の諸地域」の「ヨーロッパ」における「内容のまとまりごとの評価規準」の一例は上記の文末表現の置き換えとともに、取り上げる地域と注目する地球的課題も加筆することで次頁のようになる。

では、このような「内容のまとまりごとの評価規準」の一例は、教科書の中ではどのように示されていることになるだろうか。この点について、『社会科 中学生の地理』第2章第2節

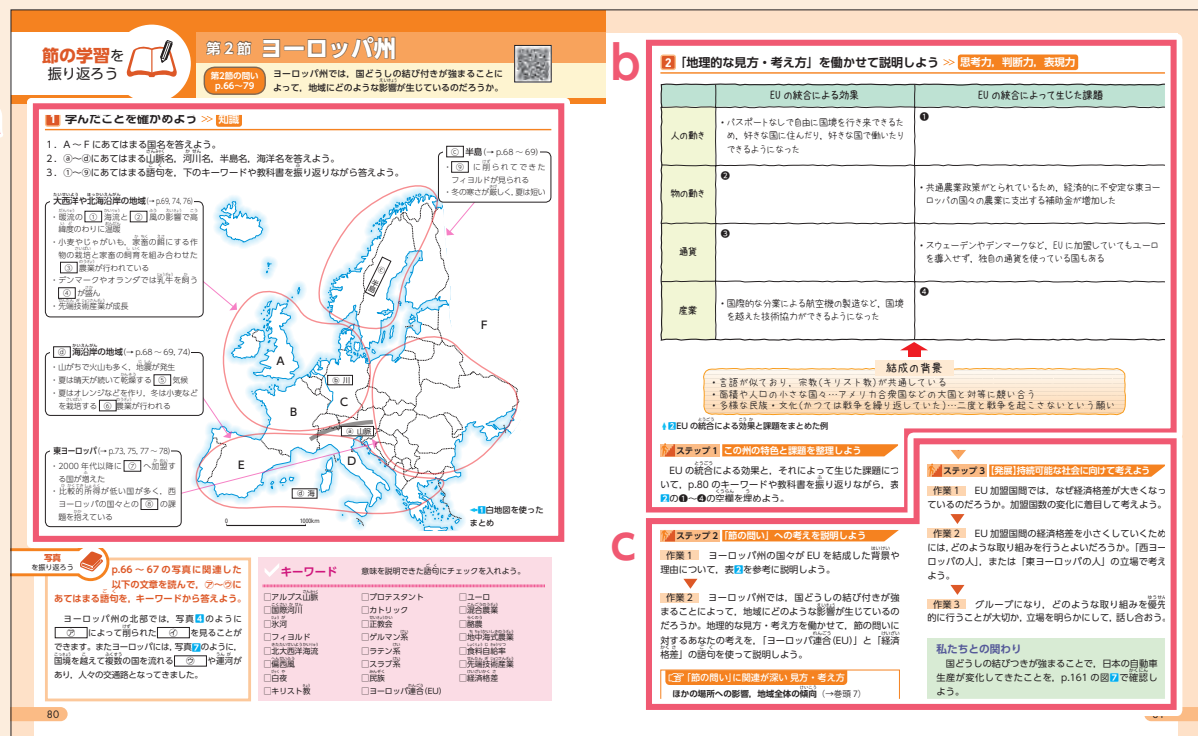


図1 『社会科 中学生の地理』 p.80～81 第2部第2章第2節「ヨーロッパ州」の「節の学習を振り返ろう」

「ヨーロッパ州」の節末に配置されている「節の学習を振り返ろう」に注目したい (p.80～81, 図1)。「章(節)の学習を振り返ろう」には、実は「内容のまとまりごとの評価規準」の一例がコンパクトに整理されており、それは「ヨーロッパ州」に関して目指される学習内容や方法の到達点が明示されていることになる。

知識・技能

- ・ヨーロッパで顕在化している地球的課題としての経済格差は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。
- ・ヨーロッパに暮らす人々の生活を基に、ヨーロッパの地域的特色を大観し理解している。

思考・判断・表現

- ・ヨーロッパで見られる地球的課題としての経済格差の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。

主体的に学習に取り組む態度

- ・ヨーロッパについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

※下線部は置き換ええ加筆の箇所該当する。

ここでの「節の学習を振り返ろう」の見開き左ページでは、ヨーロッパの学習で最低限おさえておきたい国名や山脈名、河川名や語句などの確認が「学んだことを確かめよう」で整理できるようになっている(図1-a)。特にヨーロッパの中でも経済格差の現れ方が異なる地中海沿

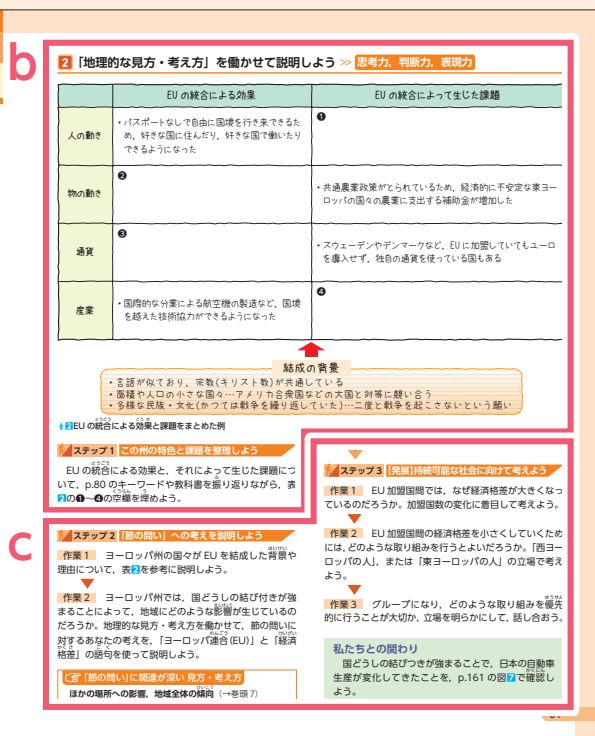


図2 『社会科 中学生の歴史』 p.92 第2部第2章「武家政権の成長と東アジア」の「章の学習を振り返ろう」(上), p.93に掲載されている「この章の問いで働かせる見方・考え方の例」(下)

ような教科書の作り自体が、社会科における「指導と評価の一体化」のあり方そのものでもある。

3. 「章(節)の学習を振り返ろう」の確認から始める

社会科における「指導と評価の一体化」の具体的手法の象徴が、教科書の各単元や学習の区切りなどに配置されている「章(節)の学習を振り返ろう」である。そこで、『社会科 中学生の地理』とともに『社会科 中学生の歴史』と『社会科 中学生の公民』においても、今後の授業の中で共通して提案したいことがある。

それは、例えば、『社会科 中学生の地理』第2章第2節「ヨーロッパ州」の場合では、州の学習の冒頭見開きにある「写真で眺めるヨーロッパ州」(p.66～67)の後に続くページの順番に学習を進めて行く前に、節末に配置されている「節の学習を振り返ろう」から先に確認することである。まず「写真で眺めるヨーロッパ州」で写真からヨーロッパのイメージをふくらませながら、次にここではヨーロッパの何をどこまで学習していけばよいのか、その見通しを節末の「節の学習を振り返ろう」で先に概観する方法である。もちろん、いきなり「節の学習を振り返ろう」の空欄を埋めていくことを求めるのではなく、ヨーロッパの学習を進めていく際の視点や方法となりそうな見通しを先生と生徒で簡単に相互確認するだけで十分である。これにより、学習の入り口で先生と生徒の双方で本単元の評価規準を確認することにもなる。

このような「章(節)の学習を振り返ろう」の確認から始める学習展開は、『社会科 中学生の歴史』ではさらに効果的である。例えば、第2章「武家政権の成長と東アジア」から第3章「武家政権の展開と世界の動き」への学習展開として、第2章の「章の学習を振り返ろう」(p.92～93, 図2)で第2章の学習をしっかりとおさえられた生徒たちに、では次の時代の何をどのように見たり考えたりするとよさそうかを、第3章の「章の学習を振り返ろう」(p.146～147)を先に確認することで、まさしく歴史の大きな流れと時代の移り変わりの特色を的確につかん



でいける可能性が高まる。特に歴史の「章の学習を振り返ろう」

には、各時代の年表とともに「この章の問いで働かせる見方・考え方の例」もあり、各時代の学習の冒頭でもぜひ確認しておきたい(図2)。

『社会科 中学生の公民』の「章の学習を振り返ろう」は特に見開きの左ページは用語的な知識の整理が設定されている。これから新たな章の学習を始める生徒には公民的分野で数多く学習する政治用語や経済用語の理解に苦しむ場合が多いが、このような用語が出てくることを先に「章の学習を振り返ろう」で確認したうえで、それらの用語は具体的な社会現象や社会問題とどのように関連しているのかを授業の中で考えていく展開にすることで、難解な用語が現象や問題を解明する大きな鍵(概念)となっていくことをつかめれば、公民的分野を学習する手応えと意味を実感できることにもつながっていく。

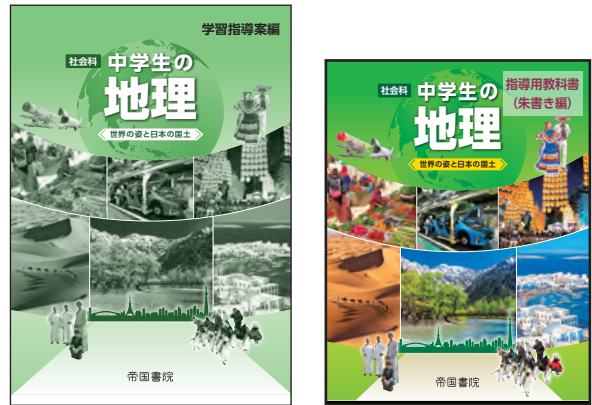
以上のような「章(節)の学習を振り返ろう」の確認から始める学習のあり方は、先に試験問題を見せておいて、社会科の授業を進めるようなものではないか、との否定的な声も一昔前には多かった。しかしながら、中学生がいま、なぜ今日の社会科授業でこの内容を学習するのか、その意味と見通しと手応えをしっかりと確認できる手立てとしての「指導と評価の一体化」が当然視される状況が到来している。

地理・歴史・公民の指導書には「学習の見通し・振り返り」をサポートするツールや学習指導案などをご用意！

●地理・歴史・公民の指導書の収録内容

地理

本冊子 p.9-10



- ① 学習指導案編 (322 ページ)
- ② 指導用教科書 (朱書き編) (314 ページ)
- ③ 指導書 Web サポート 定価 16,500 円 (本体 15,000 円+税)

公民

本冊子 p.13-14



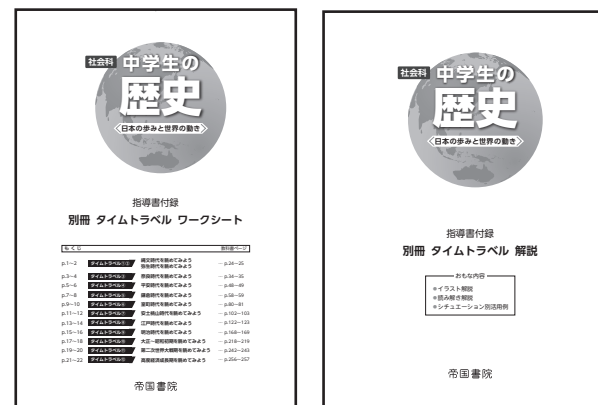
- ① 学習指導案編 (266 ページ)
- ② 指導用教科書 (朱書き編) (250 ページ)
- ③ 指導書 Web サポート 定価 14,300 円 (本体 13,000 円+税)

歴史

本冊子 p.11-12



- ① 学習指導案編 (318 ページ)
- ② 指導用教科書 (朱書き編) (314 ページ)
- ⑤ 指導書 Web サポート



- ③ タイムトラベルワークシート (24 ページ)
- ④ タイムトラベル解説 (48 ページ)
- 定価 16,500 円 (本体 15,000 円+税)

- 学習指導案編：年間指導計画案、単元構成案、授業展開案や評価規準例などを掲載。
- 指導用教科書：教科書誌面の縮刷版を中心に置き、該当する文章・写真・図版には(朱書き編) 読み取りや解説を掲載。

●指導書 Web サポート内「学習の見通し・振り返りシート」

単元の見通し

学習の見通し・振り返りシート

歴史的分野 第2部 第2章 第2節 武家政権の内と外

第2節の問い：ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。

節の見通し

(1) 「節の問い」について、学んでみたいことや、疑問に思ったことを自分の言葉で表してみよう。

(2) 解決のために、何が分かればよいか、どのようなことを調べればよいかなど、見通しを立てよう。

学習前の予想・学習後の振り返り

本時の項目と学習課題	学習前の予想	学習後の振り返り
1. 海を越えて迫る元軍 蒙古襲来は、鎌倉幕府の政治にどのような影響を与えたのだろうか。		
2. 南北朝の内乱と新たな幕府 なぜ鎌倉幕府は行き詰まり、室町幕府が成立したのだろうか。		
3. 東アジアの交易と倭寇 室町幕府は、東アジア諸国とどのような関係を築いたのだろうか。		
4. 琉球とアイヌの人々がつなぐ交易 琉球王国やアイヌの人々は、周辺諸国とどのような関係を築いたのだろうか。		

節の振り返り

(1) 東アジアとの交流がこの時代の日本にもたらした影響とは何か、政治と経済の面から説明してみよう。

(2) この節で学んだことから、次の節の学習に生かせることを考えてみよう。

単元の振り返り

学習前の
予想・
学習後の
振り返り

- 「学習の見通し・振り返りシート」は、地理・歴史・公民の指導書 Web サポートに掲載。
⇒ 地理：17、歴史：25、公民：16 シート掲載。
- 指導書 Web サポートの内容一覧は、本冊子 p.15 に掲載。

● 「学習の見通し・振り返りシート」

～各節（章）の見通し・振り返り、学習前後の変容の確認に最適～

学習の見通し・振り返りシート

地理的分野 第2部 第2章 第2節 ヨーロッパ州

第2節の問い ヨーロッパ州では、国どうしの結び付きが強まることによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

節の見通し

(1) 「節の問い」について、学んでみたいことや、疑問に思ったことを自分の言葉で表してみよう。

(2) 解決のために、何が分かればよいか、どのようなことを調べればよいかなど、見通しを立てよう。

学習前の予想・学習後の振り返り

本時の項目と学習課題	学習前の予想	学習後の振り返り
1. ヨーロッパ州の自然環境 ユーラシア大陸の西部に位置するヨーロッパ州では、地形や気候にどのような特色がみられるだろうか。		
2. ヨーロッパ文化の共通性と多様性 多くの国々が集まるヨーロッパの文化には、どのような共通性や多様性があるのだろうか。		
3. EUの成り立ちとその影響 ヨーロッパでは、国境を越えた結び付きが強まることにより、人々の生活にどのような変化が見られたのだろうか。		
4. ヨーロッパの農業とEUの影響 ヨーロッパの農業には、地域によってどのような特色があり、EUによる統合によって、どのような変化が生じたのだろうか。		

5. ヨーロッパの工業とEUの影響

ヨーロッパの工業にはどのような特色があり、EUの統合によって、どのような変化が生じたのだろうか。

6. EUが抱える課題

統合を進めてきたEUでは、どのような課題が生じているのだろうか。

節の振り返り

(1) ヨーロッパ州では、国どうしの結び付きが強まることによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

(2) この節で学んだことから、次の節の学習に生かせることを考えてみよう。

● 「学習の見通し・振り返りシート」
 ～各節の見通し・振り返り、学習前後の変容の確認に最適～

学習の見通し・振り返りシート

歴史的分野 第2部 第2章 第1節 武士の世の始まり

第1節の問い：武家政権はどのように誕生し、どのような政治を行ったのだろうか。

節の見通し

- (1) 「節の問い」について、学んでみたいことや、疑問に思ったことを自分の言葉で表してみよう。
[]
[]
- (2) 解決のために、何が分かればよいか、どのようなことを調べればよいかなど、見通しを立てよう。
[]

学習前の予想・学習後の振り返り

本時の項目と学習課題	学習前の予想	学習後の振り返り
1. 各地で生まれる武士団 武士はどのようにして力をつけていったのだろうか。		
2. 朝廷と結びつく武士 武士はなぜ政治の実権を握ることができたのだろうか。		
3. 鎌倉を中心とした武家政権 鎌倉を中心とした武家政権は、どのような特徴を持っていたのだろうか。		
4. 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化 鎌倉時代には、どのような特色を持った文化が展開したのだろうか。		

節の振り返り

- (1) 武家政権のしくみの特徴とは何か、「領地」「御家人」という言葉を使って説明してみよう。
[]
[]
- (2) この節で学んだことから、次の節の学習に生かせることを考えてみよう。
[]
[]

● 「別冊 タイムトラベル ワークシート」
 ～学習の導入や振り返りで活用できるワークシートを収録～

このワークシートは、鎌倉時代（13～14世紀）の生活を再現したイラストを背景に、学習の見通しと振り返りを行うためのものです。

① 学習のはじめに
 ① この時代はどのような時代か眺めてみよう。
 ② 次にこの時代を三つ挙げてみよう。
 ③ この時代はどのような時代かこの時代は []
 ④ この時代は []

② 学習した内容を語らしてみよう
 ① 次の場面は、絵一切のどれに当たるか、記号を書き入れよう。
 ① 屋敷の周りに、堀めぐらされています。 ()
 ② 屋敷の主人が、納められた品を確認しています。 ()
 ③ 街道沿いに市が開かれています。 ()
 ④ 田に水を入れる水車が、川に架かっています。 ()
 ⑤ かまどがある工場で農具を修理している人がいます。 ()
 ⑥ 僧侶が、人々を連れて仏の教えを説いています。 ()

③ この時代はどのような時代かまとめよう
 この時代は []

● 「別冊 タイムトラベル 解説」
 ～資料の読み解き方を詳しく解説し、関連ページも紹介～

この解説ページは、ワークシートのイラストに付随する注釈や補足情報を提供しています。

政治 年貢として御領を納めれば領内は自由に行動し、出稼や雇農、農なども雇われ、このころになると御領も普及し、庶民の間に自由な動きが広がった。 p.82

門を守る御家 主君に忠実な御家が、主君を擁護する御家に選ばれていた。 p.84

物置やくら(灰倉) 武士の領地には、物置やくら(灰倉)が多かった。灰倉は、主君の御領に納められ、主君に代わって物置やくら(灰倉)を管理する。 p.84

門を叩き、武士の御領に納められた 武士の領地には、門を叩き、武士の御領に納められた。 p.84

武士の領地 武士の領地には、門を叩き、武士の御領に納められた。 p.84

武士の御領 武士の領地には、門を叩き、武士の御領に納められた。 p.84

武士の御領 武士の領地には、門を叩き、武士の御領に納められた。 p.84

武士の御領 武士の領地には、門を叩き、武士の御領に納められた。 p.84

公民指導書

● 「学習の見通し・振り返りシート」
～各節（章）の見通し・振り返り、学習前後の変容の確認に最適～

学習の見通し・振り返りシート

公民的分野 第2部 第1章 第1節 民主主義と日本国憲法

第1節の問い：民主社会ではなぜ法に基づく政治が大切なのだろうか。

節の見通し

(1) 「節の問い」について、学んでみたいことや、疑問に思ったことを自分の言葉で表してみよう。

Blank box for student response to question 1.

(2) 解決のために、何が分かればよいか、どのようなことを調べればよいかなど見通しを立てよう。

Blank box for student response to question 2.

学習前の予想・学習後の振り返り

Table with 3 columns: 本時の項目と学習課題, 学習前の予想, 学習後の振り返り. Contains 5 rows of learning objectives and reflection prompts.

節の振り返り

(1) 法に基づく政治が大切である理由を「国家」という言葉を用いて説明してみよう。

Blank box for student response to reflection question 1.

(2) この節で学んだことから、次の節の学習に生かせることを考えてみよう。

Blank box for student response to reflection question 2.

● 「学習指導案編」

～「章・節の見通し」から毎時の授業展開案、「章・節の振り返り」まで掲載～

Lesson plan for 'Democracy and the Japanese Constitution' (民主主義と立憲主義). Includes objectives, materials, and detailed activity instructions for students.

● 「指導用教科書(朱書き編)」

～各部の導入イラスト「学習の前に」の読み取り方も詳しく解説～

Teacher's guide for the 'Before Learning' (学習の前に) illustrations. Includes detailed explanations and annotations for various social and economic scenarios.

地図帳・教科書 指導書Webサポート



さまざまなコンテンツをWebからダウンロードできます！

● 指導書Webサポート 収録内容

収録項目	地図帳	地理	歴史	公民	概要	ファイル形式
年間指導計画案	●	●	●	●	地図帳は「活用編」、教科書は「学習指導案編」に掲載したものを収録	EXCEL形式
評価問題(テスト例)	●	●	●	●	地理・歴史・公民の評価問題(テスト例)を統一で収録	WORD形式
掲載図版データ(モノクロ)	●	●	●	●	地図帳・教科書掲載の図版(写真を除く)の白黒版	JPEG形式
掲載図版データ(カラー)		●	●	●	地図帳・教科書掲載の図版(写真を除く)のカラー版	JPEG形式
白地図	●	●			世界・日本の全図・地域別地図を収録	地図帳:PDF形式、 地理:JPEG形式
ワークシート	●	●	●	●	地図帳は世界・日本の諸地域など収録。地理は「身近な地域の調査」、歴史は「タイムトラベル」、公民は「アクティブ公民」など収録	地図帳:歴史・公民:PDF形式、 地理:WORD形式
教科書本文		●	●	●	教科書の本文、コラム、用語解説などの文字データ	TEXT形式
授業のポイント(板書例)		●	●	●	指導用教科書(朱書き編)に掲載したものの文字データ	TEXT形式
「確認しよう」「説明しよう」解答例		●	●	●	指導用教科書(朱書き編)に掲載したものの文字データ	TEXT形式
「節(章)の問い(学習)を振り返ろう」解答例		●	●	●	指導用教科書(朱書き編)に掲載したもののデータ	地理:WORD形式、 歴史・公民:TEXT形式
学習の見通し・振り返りシート		●	●	●	単元ごとに構成。デジタル教科書(教材)に対応	PDF形式
学習プリント		●	●	●	教科書の本文ページの学習プリント。デジタル教科書(教材)に対応	PDF形式
色別地形地図リンク集	●				地理院地図の色別標高図へのリンク集(47都道府県別)	Webリンク
主な変更点	●	●	●	●	更新箇所などの主な変更点の一覧表	PDF形式

● 内容紹介(サンプル)

▲ ワークシート(地図帳)

▲ 学習プリント(地理)

▲ 学習の見通し・振り返りシート(公民)

▲ ワークシート(歴史 タイムトラベル)

▲ ワークシート解答例(歴史 タイムトラベル)

